多文化関係学会第 18 回年次大会
プログラム概要

The 18th Annual Conference of
Japan Society for Multicultural Relations

【大会テーマ】

相対主義のジレンマの先へ

―― 多文化シナジーの実現に向けて ――

Beyond the Dilemmas of Relativism:
Towards the Realization of Multicultural Synergy

2019 年 11 月 15 日（金）、16 日（土）、17 日（日）
November 15, 16 & 17, 2019

会場
東京未来大学 （東京都足立区）
Tokyo Future University

ごあいさつ

2019 年の年次大会は「相対主義のジレンマの先へ:多文化シナジーの実現に向けて」をテーマに、11 月 15 日(金)～17 日(日)、東京未来大学で開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

基調講演スピーカーの Dr. Milton Bennett は、2017 年 3 月の関東地区研究会主催による研修会でも講師を務めて下さいました(details here)。この会史上最大の参加者が集まって大盛況でした。このときの終わりに、相対主義の次の段階に触れるお話があり、私たちの生きる現実が集団的な選択により構成されていること、意識を伴ったコミットメントが実際の現実社会を創り出すこと、自覚と責任を持って叶えたい未来やリアリティを志向し選択する主体としての意識を発達させること、等が語られました。参加者から「続きをもっと」というお声をいただいたことがきっかけとなり、本大会での企画が生まれました。

今回はまた、スペシャルセミナーとして DMIS セミナー (DMIS: 異文化感受性発達モデル)も開催いたします。1986 年の発表以来、多くの分野で関心が寄せられている理論です。ご本人による解説を聞く大変貴重な機会ですのでこちらも奮ってご参加下さい。

パネル・ディスカッションは「多文化関係学と私とのつながり：研究・教育における具体的な展開」です。多文化関係学を客観的に対象化せず、わたくし事として研究と教育にどうつながって展開されているかを探ります。参加者の皆様にも自分の場合はどうかと話し合って頂く時間を設けます。

新しい試みとしましては、懇親会の代わりに 1 時間だけ気軽にネットワーキングできる「ハッピーアワー」と、その後も引き続きシナジャイズ(synergize)を楽しめる「うまいもの×私たち×Bennett」つまりは「居酒屋交流会 with Bennett」を企画しました。

最後に、私と Dr. Bennett とのつながりを少しだけご紹介させてください。Dr. Bennett は Portland State University の Speech Communication 研究科での私の恩師です。30 年程前になりますが、"Consciousness and Culture"や"Intercultural Communication Workshop (院生がトレーニング法を学び翌週の学部授業でファシリテートする)"等のユニークな授業に、目を輝かせた学生達が集まって来ていました。Peter L. Berger と Thomas Luckmann の"The Social Construction of Reality"を読み構成主義について学んだ時は、私の中のパラダイム・シフトに興奮したことを覚えています。また私たちの意識や現実構築のあり方が違いと出会ったときの経験を捉えた、

「DMIS(異文化感受性発達モデル)」にも興味がつきず、今この時代において役に立つ理論ではないかと改めて考えています。

「Bennett×多文化関係学会」にどのようなシナジーが生まれるかわくわくします。この出会いが今後の多文化関係学の発展にも貢献することを心より願います。

会場の東京未来大学はドラマ「3 年 B 組金八先生」でお馴染み「桜中学校」のロケ地であった「足立区立第二中学校」の跡地を活用して建てられました。最寄りの堀切駅を降りると目の前にある駅近な大学です。反対側には荒川の土手が広がり、金八先生のオープニングが懐かしく思い出されます。こちらも是非お楽しみに足をお運び下さい。

2019 年度　第 18 回　年次大会準備委員会委員長　山本 志都　（東海大学）

11 月 15 日（金） プレカンファレンス

14:00－17:00　プレカンファレンス プログラム

「Etic な態度と Emic なスキルの 2 側面から異文化コミュニケーション力を測定する」

講師: 田崎 勝也（青山学院大学）

会場：東京未来大学　みらいホール

異文化間能力の測定を目的に開発されたテストの多くは、異文化にどう向き合うのか、意識や信念などの異文化態度を捉えようとするものでした。一方でこうした通状況的つまり Etic 的な異文化態度が優れていても、特定の状況で適切なコミュニケーションが必ずしも行えるわけではありません。場面・状況的な能力つまり Emic 的なスキルを合わせて測定することで、より包括的な異文化アセスメントが可能になります。本セミナーでは、ビジネス・コミュニケーション能力テスト C-Exam を事例にとり、Etic 的な態度と Emic 的なスキルの 2 側面から異文化コミュニケーション力を測定する複合テストの可能性について考えます。

11 月 16 日（土） 大会初日

8:50—9:20 受付 [B 棟1F 入口]

9:20—10:25 研究発表 1

- A 会場（B323 教室）　司会：渋谷 百代（埼玉大学）

ノンフォーマル教育の可能性――教育の多様性――

田中 真奈美（東京未来大学）・馬場 智子（岩手大学）

- B 会場（B324 教室）　司会：河野 秀樹（目白大学）

国内多文化チームにおける日本人リーダーの認知的志向性の継承モデル

石黒 武人（武蔵野大学）

在日中国人の文化変容態度に関する初期的探索

趙 師哲（愛知淑徳大学）・田中 共子（岡山大学）

10:25—10:35 休憩 [休憩室:B221]

10:35—11:40 研究発表 2

● A 会場（B323 教室）　司会：小坂 貴志（神田外語大学）

ドイツにおける「もうひとつの警鐘碑論争」の軌跡を再読する

——ユルゲン・ハーバーマスのコミュニケイション概念を導きの糸に——

千葉 美千子（北海道大学大学院博士後期課程満期退学）

相対主義から自己探求による多文化共生——ベネットを超えて——

福田 鈴子・砂子 岳彦（常葉大学）

● B 会場（B324 教室）　司会：原 和也（明海大学）

外国語学習者のための異文化コミュニケーション能力尺度の開発

申 知元（青山学院大学大学院）

外国語教師の資性尺度の開発

猪口 綾奈（早稲田大学）田崎 勝也（青山学院大学）

11:40—12:40 昼食休憩（60 分）

お弁当の申込みをされない場合は、来場前に滞在先近隣のコンビニ等でご用意ください。※堀切駅周辺にはございませんのでご注意ください。

12:00—13:30 ポスターセッション［会場： B321 教室］

多文化シナジーを醸成する対話活動とチーム協働のモデル提案

——地域日本語教室の開設過程を事例として——

松永 典子（九州大学）

カルチュラル・アシミレータによるアクティブラーニングの実践と教育効果

中川 典子（流通科学大学）

※ **ポスター発表をされる方は、11:40－12:00の間に A1 または A0 サイズの縦ポスターを掲示してください。**

12:40—13:45 研究発表 3

● A 会場（B323 教室）　司会：御手洗 昭治（札幌大学）

クリティカルインシデントの新動向

——アジア圏での経験を英語圏のものと比較して——

小坂 貴志（神田外語大学）

演劇的手法を用いた多文化コミュニケーション教育の実践研究

——留学生と正規学生のコミュニケーションと人間関係構築の事例を中心に——

中野 遼子（大阪大学）

● B 会場（B324 教室）　司会：赤崎　美砂（立教大学）

日本人の国際移動と老い

――ニューヨーク在住の日本人・日系人の高齢化とウェルビーイング――

金本（遠山）伊津子（桃山学院大学）・中島 民恵子（日本福祉大学）

在仏邦人女性日本語教師の職業ストレス――世代による差異に注目して――

平畑 奈美（東洋大学）

13:45―13:55 休憩［休憩室: B221］

13:55―15:00 研究発表 4

● A 会場（B323 教室）　司会：出口 朋美（近畿大学）

日本で就職をした元留学生の入職 1 ヶ月期の就職状況

内藤 伊都子（東京福祉大学）・尹 慧（たちばな学園）

明治期におけるアイヌと琉球への同化政策と今日的アイデンティティ

上野 昌之（日本大学）

● B 会場（B324 教室）　司会：武田 礼子（成城大学）

外国人児童生徒は「何ものであるか」のジレンマ

――臨床教育学の知見を援用して――

奴久妻 駿介（元一橋大学博士後期課程）

沖縄観光と多文化

大庭 由子（安田女子大学）

15:00―15:10 休憩［休憩室: B221］

15:10―16:40 特別講演　［会場: B421 ］

テーマ: DMIS セミナー（DMIS:異文化感受性発達モデル）

講演者: ミルトン・ベネット Dr. Milton Bennett （IDR Institute）

使用言語:英語

Over 30 years of theory development and research have firmly established that DMIS is a useful description of how people develop intercultural consciousness. This presentation will explore recent work I have been doing on "quantum measurement" of DMIS stages at a group level, and further explain the movement between stages as reconciliation of dilemmas: stability/change, us/them, unity/diversity, authenticity/adaptation, and

relativity/commitment. Ample time will be available for questions and discussion of specific applications of the model.

異文化感受性発達モデル（DMIS）の各段階を集団レベルで捉えるための「量子力学的観測」にまつわる最近のご研究を紹介いただき、さらに、DMIS のステージ間の移動をジレンマ間（安定／変化、我々／彼等、単一性／多様性、本物感／適応感、相対主義／コミットメント）の調和プロセスとしてどのように説明ができるかについてお話しいただきます。

講師プロフィール：ミルトン・ベネット, Ph.D.

1986 年に出版された異文化感受性発達モデル（DMIS）の考案者として知られている（2017 年の最新版は International Encyclopedia of Intercultural Communication に掲載）。物理学・言語学・社会心理学の教育的背景を持ち、異文化コミュニケーションを通して我々がいかに自己覚知し他者に共感できるようになるのか理解し教育することにそれらを生かしてきた。現在はイタリアのミラノとアメリカのワシントン州にある Intercultural Development Research Institute の所長として、グローバル企業のリーダーシップ育成、および、多文化状況の学校やコミュニティでのダイバーシティを尊重する環境構築などに役立つ、異文化意識の新たな構成主義的測定手法と応用方法を開発している。

Dr. Milton J. Bennett is well-known for creating the Developmental Model of Intercultural Communication, first published in 1986 (International Journal of Intercultural Relations) and most recently updated in 2017 (International Encyclopedia of Intercultural Communication). In his career he has applied an educational background in physics, linguistics, and social psychology to understanding and teaching how intercultural communication enables us to become aware of our own cultures and to empathize with others. He is currently Director of the Intercultural Development Research Institute located in Milan, Italy and Washington State, USA, where he is developing new forms of constructivist measurement and applications of intercultural consciousness to exercising leadership in global corporations and to building climates of respect for diversity in multicultural schools and communities.

16:50—17:50 ハッピーアワー［会場： 学生ホール］

ご挨拶： **東京未来大学学長　角山　剛**

コーディネーター: **田中　真奈美（東京未来大学）**

18:30—20:30 居酒屋交流会［会場: 青森専門料理居酒屋ごっつり］

（要事前申込み）非会員の方も参加できます。

お店を貸し切るため、事前のお申し込みが必要です。定員 40 名。

11 月 17 日（日） 大会 2 日目

8:30—9:00 受付［B 棟1F 入口］

9:00—10:05 研究発表 5

- A 会場（会議室）　司会：松井　一美（早稲田大学）

就職支援職員の語りからみる留学生の就職活動

——質的／量的なアプローチからの比較——

守﨑 誠一（関西大学）・内藤 伊都子（東京福祉大学）

ケアリング概念を反映させた「エポケー」の実践——留学生の学生面談への応用——

坂井 二郎（東京福祉大学）・石﨑　達也（東京福祉大学）

9:00—10:30　20 周年記念事業シンポジウム（学術委員会企画）［会場: B421］

テーマ: **文化研究と社会的責任**

ファシリテーター: **岡部 大祐（順天堂大学）**

ファシリテーター: **河野 秀樹（目白大学）**

ファシリテーター: **湊　邦生（高知大学）**

ファシリテーター: **藤　美帆（広島修道大学）**

10:30—10:40 休憩

10:40—12:10 パネル・ディスカッション［会場: B421］

テーマ: **多文化関係学と私とのつながり～ 研究・教育における具体的な展開 ～**

ディスカッサント: **岡部　大祐（順天堂大学）**

ディスカッサント: **馬場　智子（岩手大学）**

レスポンダント: **抱井　尚子（青山学院大学）**

レスポンダント: **松永　典子（九州大学）**

コーディネーター：**石黒　武人（武蔵野大学）・山本　志都（東海大学）**

2002 年 6 月に多文化関係学会が設立されて以来、多様な学術分野を背景とした研究者・教育者によって、多文化関係学会という知的空間のなかで様々な活動が展開されてきました。その過程で、2011 年 9 月に『多文化社会日本の課題：多文化関係学からのアプローチ』（多文化関係学会・編、明石書店）が上梓され、多文化関係学の哲学・理論的背景と具体的な研究例が示されました。それから 8 年が経ち、また、学会 20 周年を前にして、当パネル・ディスカッションでは、「多文化関係学と私とのつながり」と題し、多文化関係学がそれぞれの会員のなかでどのような意味を持っているのかを問い直し、その意義について研究・教育両面から議論を深める場を設定いたしました。当日は、現在学会で活動されている気鋭の若手研究者 2 名に、ご自身の研究・教育活動と多文化関係学とのつながりについてご発表いただきます。その後、その発表について本学会会長経験者のお二人にコメントをしていただき、多文化関係学の位置付け、意義について考察します。さらに、ディスカッションの後半では、フロアの参加者にもブレインライティングの手法を用いてご参加いただき、「多文化関係学と私とのつながり」について意見交換し、多文化関係学と個々人の研究・教育活動のつながりならびにその意義についてさらに考察を深める予定です。多文化関係学のこれまでとこれからを考えると同時に、第 18 回年次大会のテーマである「相対主義のジレンマの先へ」について考究するためのヒントも、当パネル・ディスカッションの議論のなかで提示されるのではないかと期待しております。

12:10—13:10 ランチ総会 ［会場： B421］

13:10—14:50 基調講演　［会場： B421］

テーマ：Reconciling the Dilemmas of Intercultural Consciousness: Constructing Self-Reflexive Agency

講演者： **ミルトン・ベネット　Milton Bennett（IDR Institute）**

コメンテーター： **鳥飼　玖美子（立教大学）**

司会： **山本　志都（東海大学）**

使用言語：英語

We now know that intercultural communication is not just a skill that must be learned, like riding a bicycle, but it is a particular operation of consciousness that also must be learned. In their natural use of modern language, most human beings operate with a sense of individual or collective self – that is, they exercise self-referential consciousness. But we are not necessarily “meta-conscious” in

the sense of perceiving ourselves as agents. If we do not learn to operate at that metalevel, we are not able to consciously choose to change our perspective, modify our behavior, or commit to one among several viable ethical positions. The keynote will present theory and research relevant to this active exercise of intercultural consciousness and review the dilemmas that must be reconciled for that consciousness to develop.

異文化コミュニケーションは、自転車に乗ることのような、単に学習が必要とされるスキルとするには不十分で、同様の学習を必要とした特殊な意識操作であることを私たちはよく知っている。現代語を自然に使うとき、ほとんどの人間は、個人あるいは集合的な自己という感覚で活動しており、それはつまり、自己言及的な意識を行使しているということである。しかし、自分自身を行為主体として認識する意味において、私たちは必ずしも「メタ意識的」状態にあるわけではない。そのメタレベルで稼働することを学ばない限り、私たちは意識的に自身の視点を変えることを選び取ったり、行動を修正したり、実際に採りうる選択可能な倫理的立場のうちのどれかにコミットしたりすることはできない。基調講演では異文化意識の活用に関連した理論や研究を紹介し、この意識を育成する上で調和をはかることが必要とされるジレンマについて概説する。

講演者プロフィール： ミルトン・ベネット, Ph.D. DMIS セミナーの欄をご参照ください

コメンテータープロフィール： 鳥飼玖美子, Ph.D.

立教大学名誉教授。コロンビア大学大学院修士課程修了(MA in TESOL)、サウサンプトン大学大学院人文学研究科博士課程修了（Ph.D.)。国際会議やテレビにおける同時通訳者を経て大学教員、ラジオ・テレビ英語講師を務める。NHK「世界へ発信 SNS 英語術」テレビ講師、NHK オンライン「ニュースで英語術」監修、内閣府政府広報アドバイザー、日本学術会議連携会員、日本通訳翻訳学会名誉会員、国際文化学会顧問、（公益財団法人）中央教育研究所理事、（財団法人）日本開発構想研究所理事、（財団法人）等、幅広い方面にて活動している。近著に『子どもの英語にどう向き合うか』(NHK 出版新書、2018)、『英語教育の危機』(ちくま新書、2018)、『話すための英語力』(講談社現代新書、2017)、『英語教育論争から考える』（みすず書房、2014）等がある。

14:50 閉会のあいさつ 第 18 回大会準備委員長 **山本 志都（東海大学）**

大会参加費

	事前払い （9 月 30 日までに送金）	当日払い
正会員	5000 円	7000 円
シニア会員	5000 円	7000 円
学生会員	2000 円	3000 円
非会員	7000 円	9000 円
非会員学生	4000 円	5000 円
学部生	500 円	500 円

プレカンファレンス・セミナー参加費　会員種別・非会員に関わりなく共通

事前払い　1000 円　　・　当日払い　1500 円

ハッピーアワー参加費　**大会参加者のためのネットワーキング・タイム**

一律 1000 円

居酒屋交流会 with Bennett 参加費　**基調講演者を囲んでの交流・親睦会**

一律 5000 円　（事前受付のみ　9 月 30 日までに送金）定員 40 名

お弁当　**お弁当のみ申込みは 11 月 8 日まで受け付けます（Web 申込み）**

土日二日間 1,600 円、土曜日のみ 800 円、日曜日のみ 800 円。

日曜日に予定されている総会は、昼休憩時に行われます。会員の方につきましては、お弁当の申込みを希望されない場合は、ご来場前にご用意ください。注）東京未来大学の最寄り駅(堀切駅)にはコンビニがありません。飲食店もありません(ラーメン屋 1 軒のみ)ので、あらかじめ購入してお持ち下さい。

メールアドレス：　tabunka2016<AT>gmail.com　（<AT>を@にしてください）
大会 Web サイト：　https://2019tabunka.wixsite.com/conference

東京未来大学

〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34－12

アクセス

東武スカイツリーライン（東武伊勢崎線）「堀切」駅より徒歩 2 分。
JR 常磐線・東京メトロ千代田線・東京メトロ日比谷線・つくばエクスプレス・東武スカイツリーライン（東武伊勢崎線）「北千住」駅より徒歩 15 分
京成本線「京成関屋」駅より徒歩 8 分

大学は駅から見えます。

浅草方面からおいでの場合、改札を背にして右手に行くとすぐ柳原病院があるので、右折すると正門です。

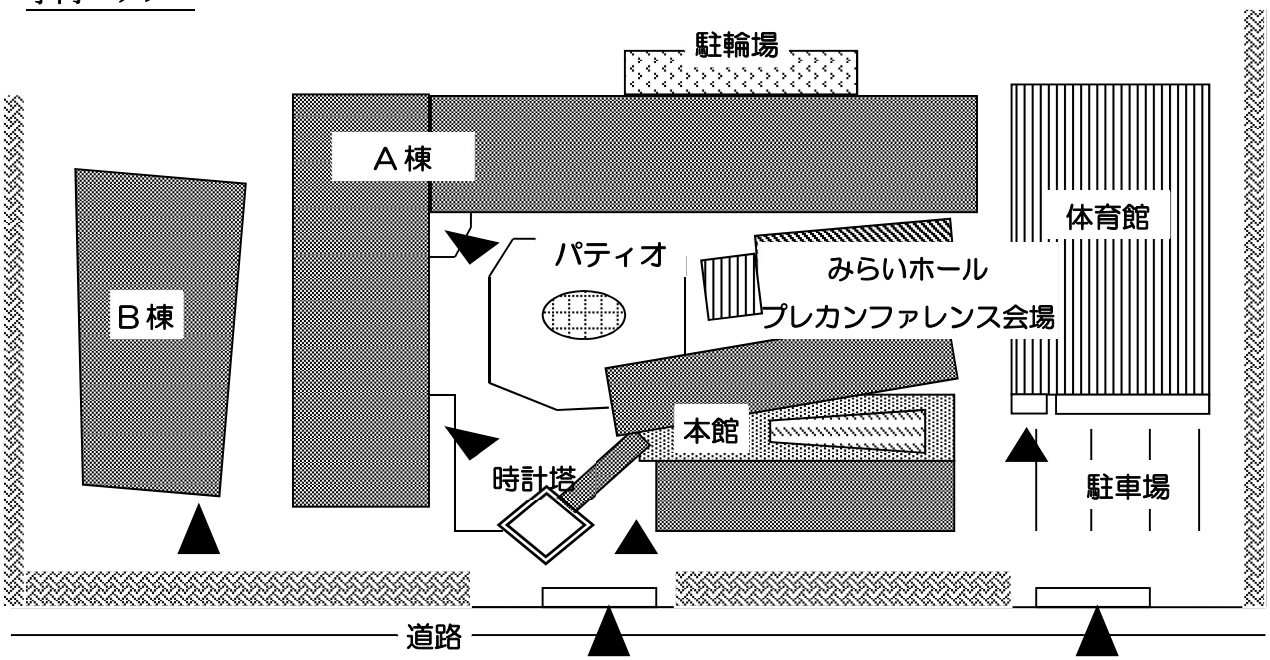
北千住方面からおいでの場合、改札を出たら**青い陸橋**を渡って大学側へお越し下さい。そのまま真っ直ぐ行き、柳原病院で右折するとすぐ正門です。

周辺情報

＊　ご宿泊には上野や浅草が便利です。

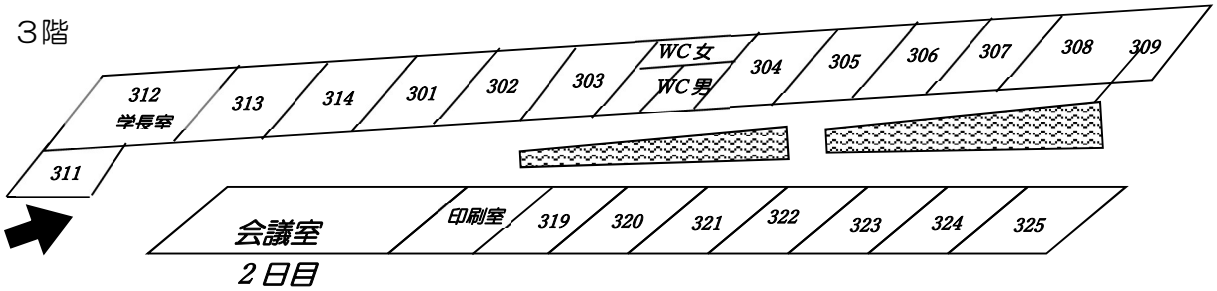
＊　駅前にコンビニがありません。コンビニは隣駅にあり、大学周辺には飲食店もほとんどないため、昼食はお弁当をお申込みいただくか、事前に購入してご持参ください。大学内に飲み物とお菓子・スナック類の自販機があります。

学内マップ



【本館レイアウト】

３階

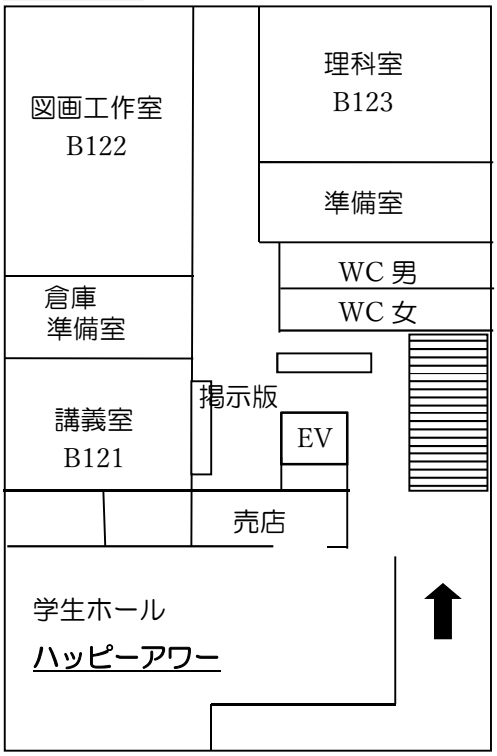


２日目

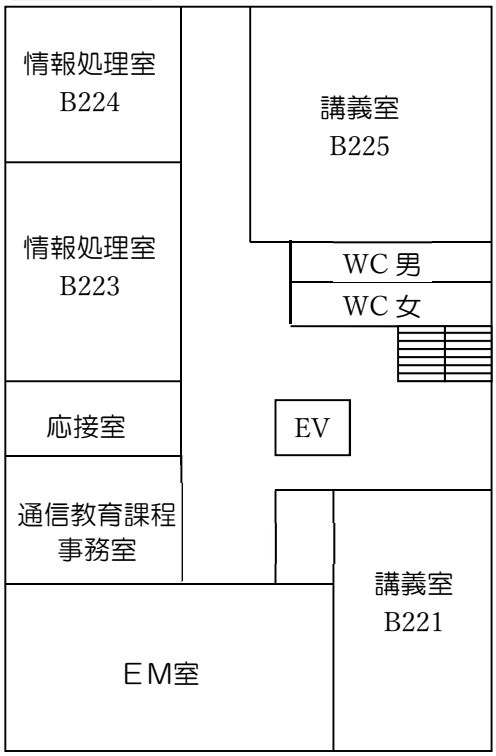
研究発表Ａ会場

【B 棟レイアウト】

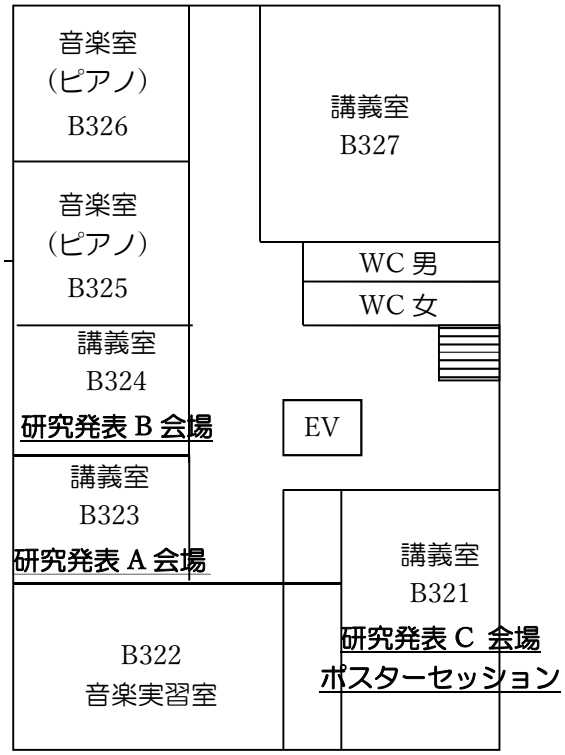
1 階



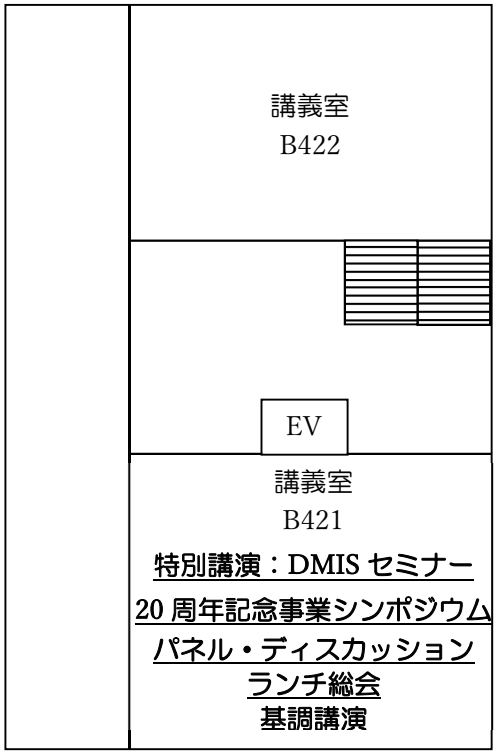
2 階



3 階



4 階



2019 年度　年次大会　大会準備委員会

大会委員長：　山本 志都（東海大学）

大会副委員長：　田中 真奈美（東京未来大学）

馬場 智子（岩手大学）

石黒武人（武蔵野大学）

横溝 環（茨城大学）

岡部 大祐（順天堂大学）